

「いや、もつと大変なのは、お城のほりの水不足じゃ。毎日、登城とじょうのたびに
見ているが、どんどん水が少なくなっ
ていく。」

「これでは、いざというとき、お城は
空からぼりにかこまれてしまう。」

「いや、戦いくさばかりではない。火事でも
おきたら、消すことができないわけだ。」

ぼつん、ぼつんと口から出てくることは
は、どれも不安でいっぱいです。静まり
かえった石垣のあたりから、静かな松風
の音が聞こえてきます。

